

日本学術会議活動状況報告

会長報告資料

日本学術会議活動状況報告

2026年8月6日

前回（第196回）総会以降の活動状況報告

第1 会長等出席行事

月 日	行 事 等	対 応 者
4月9日（木）～ 4月10日（金）	日本学術会議第196回総会	光 石 会 長 三 枝 副 会 長 磯 副 会 長 日 比 谷 副 会 長
4月10日（金）	記者会見	光 石 会 長 三 枝 副 会 長 磯 副 会 長 日 比 谷 副 会 長
4月14日（火）	日本国際賞（Japan Prize）授賞式	光 石 会 長
4月17日（金）	春の園遊会	光 石 会 長
4月21日（火）	共同主催国際会議「第41回世界獣医師会大会」開 会式	光 石 会 長
4月23日（木）	駐日オランダ大使館主催キングズデーレセプショ ン	光 石 会 長
4月30日（木）	世界科学フォーラム（WSF）2027 第2回運営委員会 （オンライン）	日 比 谷 副 会 長
5月9日（土）	日本学術会議公開シンポジウム「人口減少・人口偏 在社会に求められるヘルスケア人材：第3回」（オ ンライン）	磯 副 会 長
5月12日（火）	駐日欧州連合代表部主催ヨーロッパ・デーレセプ ション	光 石 会 長
5月17日（日） ～19日（火）	Gサイエンス学術会議2026	光 石 会 長
5月29日（金）	記者会見	光 石 会 長

		三枝副会長 磯副会長 日比谷副会長
6月2日（火）	共同主催国際会議「第22回国際内分泌学会議」開 会式・レセプション	光 石 会 長
6月5日（金）	日本内分泌学会創設100周年記念式典	磯副会長
6月7日（日）	日本学術会議公開シンポジウム「海洋生物と気候 変動：考えるべき倫理」（オンライン）	日 比 谷 副 会 長
6月12日（金）	オーストラリア社会科学アカデミー会長との会談	光 石 会 長 日 比 谷 副 会 長
6月12日（金）	Gサイエンス学術会議2026 共同声明の総理手交	光 石 会 長 日 比 谷 副 会 長
6月15日（月）～ 16日（火）	サイエンス20（S20）2026 草案検討会議	光 石 会 長 日 比 谷 副 会 長
6月22日（月）	日本学術会議公開シンポジウム「若手アカデミー 15年間の活動とこれからの展望」	三 枝 副 会 長
6月26日（金）	記者会見	光 石 会 長 三枝副会長 磯副会長 日比谷副会長
7月10日（金）	中部地区会議学術講演会「現実への三つの眼差し - 自然科学・社会科学・人文科学の世界理解をめぐる対話」	磯 副 会 長
7月13日（月）	小野田大臣との懇談	光 石 会 長 磯 副 会 長 日 比 谷 副 会 長
7月13日（月）	持続可能な社会のための科学と技術に関する国際 会議2026	光 石 会 長 磯 副 会 長 日 比 谷 副 会 長
7月13日（月）	国際学術会議（ISC）グルックマン会長とのランチ ミーティング	光 石 会 長 磯 副 会 長 日 比 谷 副 会 長

7月13日（月）	日本学士院第116回授賞式	三枝副会長
7月14日（火）	アフリカ科学アカデミー会長との会談	光石会長 日比谷副会長
7月31日（金）	記者会見	光石会長 三枝副会長 磯副会長 日比谷副会長

第2 会長談話・会長メッセージ

次の会長談話を公表した。

1 日本学術会議会長談話「令和8年熊本地震について」

（令和8（2026）年7月30日公表）

第3 提言等の承認

○提言

日本学術会議（土木工学・建築学委員会 IRDR 分科会、同委員会 IRDR 活動推進小委員会）
「壊滅的災害が想定されるメガシティの防災力強化に向けた科学技術イノベーション」

（令和8（2026）年4月10日公表）

○見解

地域研究委員会地域情報分科会

「地名問題の総合的解決に向けてー地名問題の共有化・地名データベース作成・国際連携
の三位一体アプローチー」

（令和8（2026）年4月13日公表）

健康・生活科学委員会・臨床医学委員会合同共生社会に向けたケアサイエンス分科会

「多様性・包摂性・公平性を重視したケア共同社会の社会実装ー市民とともに進める学融
合的（transdisciplinary）なケアサイエンス推進に向けてー」

（令和8（2026）年4月27日公表）

経営学委員会 AI 時代に備える経営人材育成に関する分科会

「AI 活用時代における経営人材・経営専門人材育成の変革」

(令和 8 (2026) 年 5 月 11 日公表)

地域研究委員会・地球惑星科学委員会合同地理教育・E S D 分科会

「E S D 充実のための小学校・中学校・高等学校までの地理教育一貫カリキュラムに向けて」

(令和 8 (2026) 年 5 月 20 日公表)

基礎医学委員会神経科学分科会、臨床医学委員会脳とこころ分科会、臨床医学委員会移植・再生医療分科会

「脳科学研究とその臨床応用に関わる倫理的課題」

(令和 8 (2026) 年 5 月 26 日公表)

社会学委員会ジェンダー・世代等の交差と包摂分科会

「ジェンダー統計充実に向けた性別情報の意義」

(令和 8 (2026) 年 6 月 5 日公表)

法学委員会社会と教育における LGBTI の権利保障分科会

「婚姻の平等実現に向けた民法改正への提案―相次ぐ違憲判決をふまえて―」

(令和 8 (2026) 年 6 月 5 日公表)

健康・生活科学委員会パブリックヘルス科学分科会

「加熱式タバコを含めた喫煙行動の調査・モニタリングの必要性について」

(令和 8 (2026) 年 6 月 8 日公表)

法学委員会社会と教育における LGBTI の権利保障分科会

「性的マイノリティの権利保障をめざして (Ⅲ) ―司法判断の進展をふまえて―」

(令和 8 (2026) 年 6 月 11 日公表)

健康・生活科学委員会高齢者の健康・生活分科会

「エイジ・フレンドリーな地域社会の実現－住民主体・住環境・データ活用を統合する学
際的アプローチ」

(令和 8 (2026) 年 6 月 18 日公表)

情報学委員会・心理学・教育学委員会合同教育データ利活用分科会

「教育データの利活用のさらなる促進に向けて」

(令和 8 (2026) 年 7 月 30 日公表)

○報告

農学委員会地域総合農学分科会

「多極分散型社会の実現に向けた農の役割」

(令和 8 (2026) 年 4 月 14 日公表)

材料工学委員会材料工学中長期研究戦略分科会

「未来の学術振興構想に基づく材料工学の中長期研究戦略」

(令和 8 (2026) 年 4 月 28 日公表)

健康・生活科学委員会生活者視点で健康と暮らしの課題を検討する家政学分科会

「子どもの生活に焦点を当てた子どもの育ちと子育てについての学びの充実に向けて」

(令和 8 (2026) 年 5 月 8 日公表)

情報学委員会情報学教育分科会

「情報教育課程の設計指針－初等教育から高等教育まで(第2版)」

(令和 8 (2026) 年 5 月 12 日公表)

土木工学・建築学委員会デザインをめぐる知の構築と社会的理解分科会

「デザインをめぐる知の構築と社会的理解に向けて－公共的価値を支える多様な知と実践
へー」

(令和 8 (2026) 年 6 月 5 日公表)

材料工学委員会・環境学委員会・総合工学委員会合同サーキュラーエコノミーのための資源・材料の循環利用検討分科会

「サーキュラーエコノミーにおける資源循環を機能させるための学術課題」

(令和 8 (2026) 年 6 月 19 日公表)

農学委員会土壌科学分科会、農学委員会・食料科学委員会合同IUSS分科会、農学委員会植物保護科学分科会

「Soil Health (土壌の健康) : 国民的理解と持続可能な管理のイノベーションの推進」

(令和 8 (2026) 年 6 月 29 日公表)

臨床医学委員会・健康・生活科学委員会合同老化分科会

「老化分科会の提言・見解の認知と評価、そして発信の在り方― 認知・評価に関するアンケート調査報告 ―」

(令和 8 (2026) 年 7 月 29 日公表)

地域研究委員会地域研究社会連携分科会

「不安定化する世界における地域研究の社会連携体制の構築―現状と課題―」

(令和 8 年 (2026) 年 8 月 3 日公表)

第 4 学術フォーラム

次の日本学術会議主催学術フォーラムを開催した。

- 1 「気候変動と社会変化を迎える今、国土の未来をどう考えるか (豪雨災害からの安全と豊かな暮らしを実現するために)」

(令和 8 (2026) 年 5 月 29 日 (金) 日本学術会議講堂 (オンライン併用))

- 2 「新しい地熱技術開発と地熱開発、温泉、環境の共生に向けて」

(令和 8 (2026) 年 7 月 8 日 (水) 日本学術会議講堂 (オンライン併用))

- 3 「カーボンニュートラルに向けたエネルギー供給側と需要側の連携」

(令和 8 (2026) 年 7 月 15 日 (水) 日本学術会議講堂 (オンライン併用))

- 4 「社会と学術界におけるジェンダー平等・公正ー男女共同参画基本計画の実装とジェンダー主流化」
(令和8(2026)年8月1日(土)日本学術会議講堂(オンライン併用))

第5 国際会議の開催

次の国際会議を開催した。

- 1 共同主催国際会議「第41回世界獣医師会大会」
(令和8(2026)年4月21日(火)～4月24日(金)東京都)
- 2 共同主催国際会議「第22回国際内分泌学会議」
(令和8(2026)年6月2日(火)～6月6日(土)京都府)
- 3 「持続可能な社会のための社会と技術に関する国際会議2026」
(令和8(2026)年7月13日(月)日本学術会議講堂(オンライン併用))

第6 日本学術会議地区会議

次の各地区会議主催講演会等を開催した。

- 1 中部地区会議学術講演会「現実への三つの眼差しー自然科学・社会科学・人文科学の世界理解をめぐる対話」
(令和8(2026)年7月10日(金)長野県(オンライン併用))

第7 会員の辞職及び任命

- 1 会員の任命
江島 晶子連携会員が、令和8(2026)年5月11日付で会員に任命された。

第8 慶弔等

- 1 慶事
・令和8年春の叙勲受章者 令和8(2026)年4月29日発令

【瑞宝重光章】

川人 貞史(元連携会員(第20-22期))

樋口 美雄(元会員(第20-22期)、元連携会員(第23-24期))

【瑞宝中綬章】

阿草 清滋（元連携会員（第20-24期））
池田 駿介（元会員（第20-21期）、元連携会員（第22-25期））
今西 祐一郎（元会員（第20-21期）、元連携会員（第22-23期））
太田 健一郎（元連携会員（特任）（第22-23期））
北原 和夫（元連携会員（第20-21期）元連携会員（特任）（第22-24期））
清野 宏（元連携会員（第20期））
古賀 隆治（元連携会員（特任）（第21期））
都甲 潔（元連携会員（第21-22期））
友田 陽（元連携会員（第21-22期））
花登 正宏（元連携会員（第20-22期））
古田 元夫（元連携会員（第21-22期））
松重 和美（元連携会員（第20-21期））
宮本 みち子（元連携会員（第20-25期））
山内 惟介（元連携会員（第20-23期））
横山 茂之（元連携会員（第20期））
依田 照彦（元会員（第22-23期）、元連携会員（第20-21期、第23-24期））

・令和8年春の褒章受章者 令和8（2026）年4月29日発令

【紫綬褒章】

高薮 縁（連携会員（第24-27期））
相澤 清晴（元会員（第24-25期）、連携会員（第22-23期、26-27期））
東山 哲也（連携会員（第24-27期））
工藤 昭彦（連携会員（第22-27期））
原田 博司（連携会員（第24-27期））

・アントニオ・フェルトリネッリ国際化学賞 令和8（2026）年6月12日公表

菅 裕明（会員（第25-26期））

2 弔事

・澤村 正也（さわむら まさや） 令和8（2026）年4月21日 享年64歳
連携会員（第24-27期）

北海道大学大学院理学研究院教授

- ・利根川 進（とねがわ すすむ） 令和 8（2026）年 7 月 11 日 享年 86 歳
栄誉会員、ノーベル賞受賞者、元連携会員（第 21 期-22 期）
マサチューセッツ工科大学教授

第 9 その他

事務局人事異動

参事官（審議第二担当） 新：渡邊 英一郎

（令和 8（2026）年 7 月 18 日付）

企画課長 旧：水本 圭祐

新：真弓 智也

（令和 8（2026）年 8 月 3 日付）



2026年4月から7月の活動報告

2026年8月6日 第197回総会
第26期日本学術会議会長
光石衛

- 日本学術会議第26期アクションプランについて
- その他の国際活動

- 日本学術会議のより良い役割発揮に向けて、特に今期に重点的に進めていく事項
 - 幹事会構成員のほか、産業界、若手アカデミー、広報委員会などの会員・連携会員を加えた「第26期アクションプラン企画WG」(企画WG)を中心に、委員会・分科会等と協働して取り組む
1. タイムリー、スピーディな意思の表出と助言機能の強化
 2. 学術の発展のための各種学術関係機関との密接なコミュニケーションとハブとしての活動強化
 3. ナショナルアカデミーとしての国際的プレゼンスの向上
 4. 産業界、NGO/NPOをはじめとする多様な団体、国民とのコミュニケーションの促進
 5. 学術を核とした地方活性化の促進
 6. 情報発信機能の強化
 7. 事務局機能の拡充を含む企画・執行体制の強化

1. タイムリー、スピーディな意思の表出と助言機能の強化

(具体的な取組)

✓ 課題解決型の助言機能強化

⇒ 速やかな意思の表出に向けて取り組む課題

- ・ 「第7期科学技術・イノベーション基本計画に向けての提言」(2024年11月公表)
- ・ 提言「生成AIを受容・活用する社会の実現に向けて」(2025年2月公表)
- ・ 提言「気候危機に対処するための産官学民の総力の結集－循環経済を活かし自然再興と調和する炭素中立社会への転換－」(2025年10月公表)
- ・ 提言「研究力の危機と再構築: 学術と社会を支える持続的な研究エコシステムの構築に向けて」(2025年11月公表)
- ・ 見解「能登半島地震・豪雨災害の教訓に基づく広域地域災害への備え」(2025年11月公表)
- ・ 提言「我が国の機能性食品制度に関わる課題とその対応」(2026年2月公表)
- ・ 提言「壊滅的災害が想定されるメガシティの防災力強化に向けた科学技術イノベーション」(2026年4月公表)

✓ 査読プロセスの改革による迅速化・見える化

⇒ 提言の助言手続きの合理化、意思の表出の進捗状況の可視化

✓ システムの活用を含む発出した提言等の確実なフォローアップ及び横展開の検討

⇒ 発出した提言等の確実なフォローアップを実施するためのスケジュール管理の徹底を周知

✓ 緊急時対応の検討

⇒ 緊急時における迅速な意思の表出等の対応について検討

日本学術会議の意思の表出と科学的助言機能の強化

速やかな意思の表出に向けて取り組む課題

科学技術・イノベーション基本計画

科学者委員会 学術体制分科会

➤ 第7期科学技術・イノベーション基本計画に向けての提言

2024年11月公表

2025年1月17日
CSTI基本計画専門調査会
(第2回)において発表

食品制度

食料科学委員会・農学委員会・基礎医学委員会・薬学委員会・健康・生活科学委員会関係分科会合同※

➤ 我が国の機能性食品制度に関わる課題とその対応

2026年2月公表

※食料科学委員会・農学委員会合同食の安全分科会、食料科学委員会・基礎医学委員会合同獣医学分科会、食料科学委員会・農学委員会合同農芸化学分科会、薬学委員会・食料科学委員会・基礎医学委員会合同毒性学分科会、健康・生活科学委員会パブリックヘルス科学分科会

生成AI

情報学委員会

➤ 生成AIを受容・活用する社会の実現に向けて

2025年2月公表

量子技術

情報学委員会

➤ 量子未来社会の健全な発展へ向けた課題と展望(仮題)

速やかに発出予定

2026年8月8日
日本科学未来館との
共同イベントを予定

カーボン
ニュートラル

循環経済と自然再興を活かした炭素中立社会への移行に関する検討委員会

➤ 気候危機に対処するための産官学民の総力の結集
ー循環経済を活かし自然再興と調和する炭素中立社会への転換ー

2025年10月公表

研究力強化

我が国の学術の発展・研究力強化に関する検討委員会

➤ 研究力の危機と再構築:学術と社会を支える持続的な研究エコシステムの構築に向けて

2025年11月公表

学術を核とした
地方活性化

学術を核とした地方活性化の促進に関する検討委員会

➤ 学術を核とした地方活性化の促進(仮題)

速やかに発出予定

2025年7月25日
CSTI基本計画専門調査会(第8回)
において発表

2025年11月28日
CSTI本会議(第80回)において紹介

2026年3月27日
CSTI本会議(第84回)において紹介

防災・減災

防災減災学術連携委員会

➤ 能登半島地震・豪雨災害の教訓に基づく広域地域災害への備え

2025年11月公表

➤ 壊滅的災害が想定されるメガシティの防災力強化に向けた科学技術イノベーション

2026年4月公表

第26期 意思の表出の申出件数・発出件数の状況

令和8年7月31日現在 発出件数/申出件数

	提言	見解	報告	計	※発出率
科学者委員会	3/5	0	0	3/5	※60.0%
第一部(分野別委員会)	0	7/14	4/8	11/22	※50.0%
第二部(分野別委員会)	1/3	4/8	9/12	13/23	※60.9%
第三部(分野別委員会)	2/3	1/9	4/10	7/22	※31.8%
課題別委員会	2/3	1/1	0/1	3/5	※60.0%
若手アカデミー	0	1/1	1	1/1	※100.0%
計	8/14	14/33	17/31	39/78	※50.0%

(注) ・意思の表出の種類、表題等は、作成手続の過程で変わり得る。
 ・作成分科会等が複数連名の案件は、便宜上、主たる窓口となっている分科会等に分類した。

【参考】 前期(第25期)の意思の表出件数: 提言 8件 見解 37件 報告 27件 合計72件

2. 学術の発展のための各種学術関係機関との 密接なコミュニケーションとハブとしての活動強化

(具体的な取組)

- ✓「未来の学術振興構想」の浸透・議論のためのフォーラムの開催及び学術研究振興分科会における更なる検討
 - ⇒「未来の学術振興構想(2023年版)」の改訂に向けて、「学術の中長期研究戦略」の追加募集(2025年4月1月－10月1日)
 - ⇒「学術の中長期研究戦略」の評価を行うとともに、「未来の学術振興のグランドビジョン」の取りまとめを行うため、学術研究振興分科会未来の学術振興構想評価小委員会を設置(2025年9月)
 - ⇒学術研究振興分科会において提言案「未来の学術振興構想(2026年版)」を取りまとめ(2026年7月)、2026年9月公表を目指す
- ✓学協会との更なる連携の強化に向けた方策の検討
 - ⇒「理学・工学系学協会連絡協議会」の継続的な開催
 - 「生命科学系の学協会連合体との円卓会議」の継続的な開催

3. ナショナルアカデミーとしての国際的プレゼンスの向上(1)

(具体的な取組)

✓国際アドバイザリーボードの開催

⇒2026年5月のGサイエンス学術会議において同様の意見交換を開催

✓世界のリーディングアカデミーとの連携、

アジア学術会議を軸としたアジア地域におけるリーダーシップの発揮

⇒2025年11月に第24回アジア学術会議(於:パキスタン)を開催

✓主要国若手アカデミー間の国際連携活動等を通じた次世代育成

⇒2025年6月に開催された各国から若手研究者が集まるグローバルヤングアカデミー総会(於:インド)に若手研究者2名を日本学術会議の代表として派遣

⇒2025年7月に若手アカデミーがインターアカデミーパートナーシップ(IAP)のYoung Affiliateに加入

⇒2025年度新たに実施した「若手研究者海外派遣支援プロジェクト」において、経済協力開発機構(OECD)のフォーラム(於:スロバキア)及びインターアカデミーパートナーシップ(IAP)総会(於:エジプト)に若手研究者を派遣

■ Gサイエンス学術会議2026 (5月17～19日 フランス・パリにて開催)

✓ 3つの共同声明を採択し、マクロン仏大統領及び高市総理大臣へ手交

(①大規模衛星コンステレーション、②グローバルな北極域、③脳の健康とメンタルヘルスの推進)

✓ アカデミーの独立性と学問の自由に関する意見交換(ラウンド・テーブル)

- ・ 国際アドバイザリーボードでの率直な意見交換は参加アカデミーから高い評価を獲得。
- ・ その成果を踏まえ、日本の提案によりGサイエンス学術会議でもG7アカデミー代表によるラウンド・テーブルを実施。学問の自由・アカデミーの独立性、研究者の保護、国際協力の重要性を共有。

⇒ これらの内容について、パリ宣言として発出予定。



セッションで登壇・発言する光石会長



ラウンド・テーブルの様子



マクロン大統領及び
各国アカデミー代表



高市総理に共同声明を手交

写真提供: 首相官邸

写真提供: Mathieu Baumer / Académie des sciences

■ アジア地域におけるリーダーシップの発揮



- 2025年11月、第24回アジア学術会議年次会合をパキスタンで開催。「食料安全保障、持続可能性、生物多様性」をテーマに、20ヶ国・地域より約150名が参加。日本学術会議が恒常的な事務局機能を担う。
- 会議では、第24回アジア学術会議大会宣言を採択し、以下の点が確認された。
 - ・ 気候変動や生態系劣化への対処のための協働的な対策を進め、科学に基づく緊急かつ協調的行動を促進する
 - ・ 科学アカデミーが研究・教育・人材育成を主導し、データ共有や共同研究を進め、国際機関や民間を含む多様なパートナーとの連携を加速する



開会式で挨拶する光石衛日本学術会議会長



ムハンマド・アスラム・ベグSCA会長(当時)より日本学術会議への謝辞とともに記念品の贈呈を受ける光石衛日本学術会議会長

4. 産業界、NGO/NPOをはじめとする多様な団体、 国民とのコミュニケーションの促進

(具体的な取組)

- ✓ 産業界からの会員・連携会員を核とした産業界との対話の促進
⇒ COCNと、若手研究者の意見交換を実施(2025年7月)
⇒ **アクションプラン企画WGにおいて、企業との対話を開始(2026年7月)**

- ✓ 国民とのコミュニケーションの促進の具体化
⇒ 一昨年に引き続き、**こども霞が関見学デー**の実施(2025年8月)

- ✓ 科学リテラシー向上のための取組
⇒ **日本科学未来館との共同イベントの開催(2026年8月8日開催予定)**

こども霞が関見学デーの実施

- こども(小中学生・幼児等)に向けて、日本学術会議を広く知ってもらう機会を設定
- 「こども霞が関見学デー」にあわせて実施
- 若手アカデミーによる「生き物」や「宇宙」等をテーマにしたこどもにもわかりやすい講演、ミニゲームなどのプログラムを企画

当日の様子(日本学術会議ウェブサイトより)



若手アカデミー
石川先生、木村
先生による
「いろんな生き物
の子育て～進化
の仕組みと家族
をめぐる法律」
についての講演
の様子



日本学術会議YouTube
「こども霞が関見学デー」(2025年8月6日・7日)
<https://youtu.be/16r0pUCRmFo?si=fHkZY5gEVwEu-1EF>

開催日

2026年8月8日(土)
10:30-13:00

開催場所

日本科学未来館

公開シンポジウム

日本学術会議・日本科学未来館



登壇者

黒橋 祐夫	国立情報学研究所 所長
長谷山 美紀	北海道大学大学院 教授
奥野 恭史	京都大学大学院 教授
野口 伸	北海道大学大学院 教授
中村 征樹	大阪大学 教授
美馬 のゆり	公立はこだて未来大学 名誉教授

概要

理1学系・生命科学系・人文社会科学系の研究者が、それぞれの立場からAIについてお話しします。AIのしくみやできることなど技術的な話題、医療・農業での活用、さらには社会や個人の生活の中で生まれる課題まで、多角的な視点から見ていきます。そのうえで、次代を担う若い世代である参加者のみなさんと研究者が直接対話を行います。

AIや科学技術に関心がある人はもちろん、暮らしや社会、仕事や進路との関わりからAIについて考えてみたい人にもおすすめです。これからの時代の中で、AIとどう向き合っていくのかを一層考えてみませんか。

- 特に若い世代の科学リテラシー向上のため、全国の科学館・博物館等との連携により日本学術会議の活動を広めていくことが重要
- 日本科学未来館館長と企画WGで意見交換、視察を実施

⇒ 2026年8月8日(土) 共同イベントの開催

同日午後には、日本科学未来館の展示を見ながら、日本学術会議会員が質問に答える、研究者トークリレー「ハカセに聞こう！ 科学のギモン」を実施予定

5. 学術を核とした地方活性化の促進

(具体的な取組)

✓ 地方学術会議等を活用した地方活性化に関する取組の検討

⇒ **日本学術会議 in 石川**の開催(2025年8月2日)

✓ 「**学術を核とした地方活性化**の促進に関する検討委員会」(2025年1月設置)
において意思の表出を予定



日本学術会議in石川 学術講演会

大災害からの復興と
持続的社会的モデルを目指して～
半島地域からの問題提起

令和6年1月に発生した能登半島地震は、“半島”という地域社会に甚大な被害をもたらしました。この大災害を通して、地域の脆弱性や課題が浮き彫りとなり、今後の復興と持続可能な社会の構築に向けた新たな視点が求められています。本会議は、災害からの復興過程で明らかになった課題を共有した上でこれまでの取り組みを検証し、今後必要なことを探ることを目的としています。

どなたでも参加頂けます
参加費
無料



日本学術会議YouTube

能登半島事前訪問(2025年7月18日)

<https://youtu.be/5t29nv5Qf2I?si=vPmBYEFxNHFS3dv8>

日本学術会議in石川(2025年8月2日)

https://youtu.be/2_Izj5vE6Ns?si=58yYOw49WYEBH-AC

6. 情報発信機能の強化

7. 事務局機能の拡充を含む企画・執行体制の強化

6. 情報発信機能の強化

(具体的な取組)

✓ 国民・社会を意識したウェブページの充実

⇒ 地方学術会議、こども霞が関見学デー、日本科学未来館との共同イベントの動画の掲載等

✓ 意思の表出の広報用チラシ及びショート動画の作成

⇒ 国民の興味・関心を引き、本文の閲覧につなげる

✓ プロフェッショナル人材等の活用

⇒ 日本学術会議アドバイザーとしてプロフェッショナル人材を委嘱

✓ 若年層への情報発信に向けた検討

7. 事務局機能の拡充を含む企画・執行体制の強化

(具体的な取組)

✓ 企画WGによるアクションプランの推進体制の強化

✓ アクションプランを踏まえた事務局体制の強化(継続検討中) 等

日本学術会議第26期アクションプランについて (より良い役割発揮に向けてとの関係)

日本学術会議のより良い役割発揮に向けて

日本学術会議第26期アクションプラン

1 国際活動の強化

3. ナショナルアカデミーとしての国際的プレゼンスの向上

2 科学的助言機能の強化

1. タイムリー、スピーディな意思の表出と助言機能の強化

3 対話を通じた情報発信力の強化

6. 情報発信機能の強化

2. 学術の発展のための各種学術関係機関との密接なコミュニケーションとハブとしての活動強化

4. 産業界、NGO/NPOをはじめとする多様な団体、国民とのコミュニケーションの促進

5. 学術を核とした地方活性化の促進

4 会員選考プロセスの透明性の向上

5 事務局機能の強化

7. 事務局機能の拡充を含む企画・執行体制の強化

その他の国際活動

2026年

- | | |
|-----------|----------------------------------|
| 4月21日 | 共同主催国際会議「第41回世界獣医師会大会」開会式 |
| 4月23日 | 駐日オランダ大使館キングスデーレセプション |
| 5月17日～19日 | Gサイエンス学術会議2026 |
| 6月2日 | 共同主催国際会議「第22回国際内分泌学会議」開会式・レセプション |
| 6月12日 | オーストラリア社会科学アカデミー会長との会談 |
| 6月12日 | Gサイエンス学術会議2026共同声明の総理手交 |
| 6月15日～16日 | サイエンス20(S20)2026草案検討会議 |
| 7月13日 | 持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議2026 |
| 7月14日 | アフリカ科学アカデミー会長との会談 |